学校番号	２０３

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「古典Ａ　大鏡　源氏物語　諸家の文章」　（第一学習社）						
副教材等	「私大マーク対応古文過去問題集」（桐原書店） 「古典文法　改訂版」（東京書籍） 「古文単語　３３０」（いいずな書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古典作品を数多く読むことによって、古典をより身近なものとして、味わい鑑賞する姿勢を身につけましょう。また、古人が培ってきた言語文化に対する理解を深めましょう。
・古典作品を読み味わうために、古典文法の知識や語彙力を身につけましょう。
・予習として何度も本文を音読して、古典作品の文体を味わいましょう。また、辞書を引いて語句調べをし、文脈に沿った本文における語句の意味を調べておきましょう。

2　学習の到達目標

古典を読むことによって，我が国の伝統と文化に対する理解を深め，生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。			まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） 記述の確認（ノート、ワークシート等）			行動の観察（学習活動における発言内容） 記述の確認（ワークシート等） 定期考査	行動の観察（学習活動における発言内容） 記述の確認（ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	物語	教材: 『伊勢物語』 「渚の院」 「さらぬ別れ」	○			◎	○	a:古典特有の表現を味わおうとしている。 d:歌物語における地の文と和歌とがどのように機能しているのか理解している。 e:重要な古語の意味、和歌の修辞を理解している。	a:行動の観察、記述の確認 d:行動の観察、記述の確認、定期考査 e:行動の観察、記述の確認、定期考査、小テスト
	物語	教材: 『とりかへばや物語』	○			◎	○	a:古典特有の表現、物語の面白さを味わおうとしている。 d:登場人物の関係、若君と姫君の人物造型を理解している。 e:若君と姫君を「とりかへばや（取り替えたい）」という、物語の趣向を理解している。	a:行動の観察、記述の確認 d:行動の観察、記述の確認、定期考査 e:行動の観察、記述の確認、定期考査、小テスト
二学期	物語	教材: 『平家物語』 『住吉物語』	○			◎	○	a:古典特有の表現を味わおうとしている。 d:地の文や和歌の内容から登場人物の心情を理解している。 e:和歌の修辞、「に」「し」「の」の識別方法を理解している。	a:行動の観察、記述の確認 d:行動の観察、記述の確認、定期考査 e:行動の観察、記述の確認、定期考査、小テスト
	物語	教材: 『源氏物語』 「夕顔の死」 「物の怪の出現」 「野宮の別れ」 「蛍火のいたづら」 「柏木の懸想」	○			◎	○	a:文学史における源氏物語の位置を理解しようとしている。 d:和歌の修辞に留意しながら正確に読み取る。 e:正確な読解を通して登場人物の人物像に迫り、作品の全体像を把握する。	a:行動の観察、記述の確認 d:行動の観察、記述の確認、定期考査 e:行動の観察、記述の確認、定期考査、小テスト
三学期	評論	教材: 『俊頼髄脳』 『古今集仮名序』	○			◎	○	a:筆者の主意を表す表現の内容を的確に理解しようとしている。 d:本文の内容を理解し、人物像を読み取っている。 e:主要な助詞・助動詞・副詞の意味をおさえた上で正確に現代語訳ができる。	a:行動の観察、記述の確認 d:行動の観察、記述の確認、小テスト e:行動の観察、記述の確認、小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力
d:読む能力　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。